

令和6年度 第2回摂津市民図書館等協議会 要点録

日時:令和6年8月28日(水)

14時00分～16時30分

場所:摂津市民図書館 3階大会議室

出席委員: 9名

欠席委員: 1名

事務局: 3名

図書館: 2名

案件 1. モニタリング評価結果報告(令和6年度第1四半期)

2. 令和5年度図書館年報報告

3. 摂津市子ども読書活動推進計画改訂

(1)モニタリング評価結果報告(令和6年度第1四半期)について

(事務局) — モニタリング評価結果(令和6年度第1四半期)について説明 —

(委員) 図書館年報の分類別貸出冊数で貸出比率が1%に満たないものについては購入の際に考慮するのか。

(図書館) 図書の購入の際には、貸出冊数や蔵書冊数を考慮して今後も選書を行う。

(委員) 中・高の子ども達も見てみたいと思えるインスタなど頑張してほしい。

(図書館) 第1四半期は、図書館の基本業務の確立に注力しており、情報発信については少し不足していたと思える。7月以降は、SNSでの発信強化に努めている。

(委員) 「貸出40冊キャンペーン」はホームページの催し物案内に掲載されていたが、摂津市報に掲載していればもっとPRできたのでは。

(図書館) 「広報せつつ」には掲載したが、スペースの問題でキャンペーン名称と期間しか掲載できなかった。広報・ホームページ・SNSの活用を意識して告知を行う。

(委員) スタッフの対応やサービスは向上している気がするが、やはりトイレが和式のままであり、施設面の改修はスピード感をもって対応してほしい。

(図書館) 来年度にトイレの改修を実施予定。工事期間中は休館になるが、予約本の受け渡しや返却の対応は行う。

(委員) 今のトイレに荷物置き場がないので、改修の際に設置してほしい。

(事務局) 可能な限り全ての個室に荷物置き場がつくよう設計を進めている。

(委員) 工期がわかれば、利用者の方にも楽しみにしていただけるようにできるだけ早く告知すると思う。

- (委員) 電子図書館について、年代によって利用数に大きく差がでている。様々な年代に対しての利用啓発を行ってほしい。
- (図書館) 館内訴求や電子図書館体験会などの地道な訴求活動が必要だと感じている。
- (委員) 電子図書館体験会の曜日、時間帯はいつ頃を考えているか。
- (図書館) 土曜日の午前中が参加者が一番多いだろうと考えている。
- (委員) 子育て中の母親は土曜の午前は参加が難しい。仕事終わりや子どもたちが学校に行っている時間など様々な時間の設定をしてほしい。子育て中の人が1人の時間を取れる場があればより良い。
- (委員) 評価項目に、高齢者、障害者、外国人の対応とあるが、当事者ではないのでよく分からない。スタッフの方が一度車イスで館内を回られて、実際本を探す疑似体験をするか、協議会委員に障害のある方を迎えてみてはどうか。
- (図書館) 車椅子での疑似体験を実際行ってみたところ、家具の配置で通れない箇所を2箇所発見した。またイベント時の展示本の置き方では通れなくなることがわかった。
- (委員) 協議会委員公募の際に「障害のある方も大歓迎」のような言葉をひとつ添えてみてはどうか。
- (事務局) 検討する。
- (委員) 他の図書館では本の帯を書籍に貼り付けているところもある。検討してみてはどうか。
- (図書館) 帯に書かれている紹介文などは、利用者にとっても読む前の楽しみなのかもしれない。納入先の業者に相談したい。
- (委員) 外した帯をしおり状にして本につけてもらえるといい。帯に作者のこだわりがある本もある。
- (委員) 図書館なので、販促の帯がいない、ブックデザインを大切にしたい人もいる。
- (委員) リサイクルブックフェアについては、トラブル防止のため冊数制限などルールの改善が必要ではないか。
- (図書館) 市民・鳥飼ともに初日の開始30分ほどまでは入場待ちの状態になるので、この時間帯にスタッフを多めに配置して来年度は強引な持ち帰りが発生しないようコントロールする。
- (委員) 冊数の制限というか、1回あたりの冊数は制限して、決まった数を手にしたら一度外に出て再入場してもらうというのはどうか。
- (図書館) 公平感のあるルール作りを検討する。
- (委員) 施設管理の空気環境調査で4月に湿度の低さが指摘されていたが、その後対応は。秋冬の対策を教えてください。
- (図書館) 6月の調査では基準値内だったので、経過観察を続け異常値が出た際には速やかに対策する。

- (委員) 本にとって湿度は低い方がいいのか高い方がいいのか。(公共施設としての)衛生基準規則があり、その範囲に入っていれば問題ないと思う
- (委員) Xやインスタでの情報発信が少ない。図書館に行かないとわからないのではなく、図書館に足を運びたくなるようにするための SNS だと思う。またホームページもほしい情報に飛べるようにリンクしてもらいたい。
- (図書館) SNS は担当を明確にして7月以降は市民図書館でもしっかりと情報発信していく。ホームページについてはもう少し工夫が必要といえるのでテコ入れ修正していく。
- (委員) 子ども読書活動推進計画を読んだときに「誰もが楽しく行けるような図書館」と書いてあったのに、「すくすくタイム」という時間帯を設けないと子どもと一緒に図書館に気軽に行けないということが理解しがたい。必要なのは時間帯ではなく、スペースではないかと思う。
- (委員) 現状は月1回の実施だったが、すくすくタイムに合わせて利用者は来ているのか。
- (図書館) 同じ時間帯に「おはなしぽっぽ」というおはなし会を実施しており、そこに毎回2、3人参加されているが、それは合わせて来ているということではないと思う。
- (委員) 公共図書館は、家と違って静かにしなければならないということを教える場でもある。すくすくタイムでなくても、少々騒ぐことに対しては寛容になるべきで、節度を守らず騒いでいる子どもには注意をするという形で良いのではないか。
- (委員) 今、市役所の6階が子育て中の人が行きやすい雰囲気になっていて、そういう雰囲気をもっと増えれば公共施設にも行きやすくなる。どんな時間もすくすくタイムの心構えでやっています、というのを出していけばいいのでは。
- (委員) 固定概念を持っている人に「多少子どもが騒ぐことがあります、子どもに優しい図書館であるため、ご理解願います。」と表示することで、すくすくタイムの趣旨は十分汲むことができ、いつでも子ども連れの来館が増えるのではないか。
- (事務局) 図書館は静かであるべきという固定概念があることはあまり良しとしないが、持っている人がいることも現状。話してしまう子どもたちに寛容になってもらいたい一方で、節度やマナーを理解してもらうよう教育することも大切。そういった意味では、委員の皆様が仰っている通り、時間で区切るのではなく、掲示物等で啓発する方法でも良いかもしれない。
- (委員) 一般的なマナーやある一定のルールなども学ぶべきものではある。
- (委員) このコーナー(フロア)はそういう場であることを伝え、嫌な方にはエリアを変えてもらえばいいが、いき過ぎると迷惑にしかならない。
- (委員) ここは公共の場なのでお互いが譲り合い認め合うということを発信していくべきだ。どちらかが我慢する状況はよくない。

- (事務局) ご提案いただいたことを試していきたい。
- (委員) 会議の進め方について、説明案件を先にして、休憩をはさんでモニタリングの意見への回答質疑にしてはどうか。また、モニタリングの意見への回答まとめをあらかじめ委員に配布しておけば、会議の場では追加質問のみになるので中身が濃い議論ができると思う。
- (事務局) 次回実施で検討する。
- (2) 令和5年度図書館年報報告
- (委員) サービス開始から2年目以降に電子図書館の利用が減少している状況は全国的なことか。
- (事務局) 先行してサービスを開始した茨木市立図書館では2年目以降減少したと聞いている。
- (委員) 紙の本で読めるものは電子を選ばない。
- (事務局) 紙の本と同様に2週間しか借りられない、1人しか読めないというのも利用低下の原因の一つと考えている。サブスク制度(定額読み放題)の導入も検討していきたい。
- (委員) ある図書館では電子図書の福袋イベントを行っており、本の代わりに電子図書のQRコードが袋に入っていた。
- (図書館) 実施を検討する。
- (委員) 図書と電子情報の違いについて子どもたちがわかっていない。正確な情報か検討することを知らずに、安易に1人1台あるタブレットで調べてまとめてしまう。入力すれば山のように情報が出てくる、その状況を超えて本に結びつけるための価値づけをしていかなければならない。
- 電子図書が伸びないのは“図書館”という部分から脱却できないところが大きいと思う。貸出カードがないと電子図書館に入れなくてハードルになっている。カードを作るには保護者に動いてもらう必要があるが、「調べたら出てくる」という価値観の保護者を動かすことが難しい。
- (委員) 小学生のうちに図書館を使うことを授業に入れてカードを作り本を借り返す体験ができるようになれば良い。
- (委員) 電子情報を扱う際には、リテラシーを高めることが子どもとその親にとって重要である。
- (3) 摂津市子ども読書活動推進計画改訂
- (事務局) ーアンケート実施及び実施方法について説明ー
- (委員) 回答数の予測は。
- (事務局) 小学生で4000人程度と予測している。
- (委員) 市内の園児のほとんどが私立のこども園等に通っているので公立だけにすると、回答数が少なくなる。
- (委員) 小学校1年生はタブレットでの回答よりも手を上げさせて担任が都度集計する方が良いと思う。

- (委員) 頻度について問う項目は選択肢を統一する方が良い。
- (委員) 性別を聞く目的は何か。最近では男女を問うアンケートはないと思う。
- (事務局) 男女で本を読む傾向に差があるというデータを取ることができれば課題とそれに向けた取組みができると考えている。
- (委員) 「答えたくない」が選べるにしても、先ほどのように手を上げる方法では答えられない。
- (委員) 子どもの年齢や保護者の年齢、性別をそれぞれ回答するのか。保護者の性別は必要ないと思えるし、公立の園に通園している子どもは基本的に6歳までである。
- (事務局) 園児の場合は年中、年長等が判別できることを想定している。
- (委員) 園児、小学生はよく本を読んでいて、中学生になると落ち込む傾向にあると思うが、このアンケートではその裏付けを取るものととらえていいか。
- (事務局) その通りである。
- (委員) このアンケートは計画策定のため市から発信されているものということを明確にすべきだ。
- (委員) 答えたくない質問には答えなくてもいいと書いておけば、性別を書かなくてもよくなる。
- (委員) 全ての生徒児童に回答してもらう必要はあるのか。ランダムサンプリングでも相応の結果は出るはずだ。
- (委員) イベント参加を聞かならば、参加の有無に合わせてどんなイベントに参加をしたのか聞く方が良い。
- (委員) 中学生に対して聞くときは「本」にマンガを含めてもいいと思う。
- (委員) 利用頻度よりも、過去1年間に図書館を使ったことの有無を問う方が答えやすいと思う。
- (委員) 子どもは学校の図書館か公共図書館かの区別がつかないかもしれないので、公共図書館のことは具体的に「市民図書館」「鳥飼図書センター」と書いておくと分かりやすい。
- (委員) 最初の大きな質問でイエスかノーに振り分けて、そこから別々のルートで回答するようにしておけば、答える方の負担が少ない。
- (委員) このアンケートはいつ頃実施の予定か。
- (事務局) 9月末を予定している。いただいたご意見を参考にアンケートを作成する。